

普及活動情勢報告（平成29年3月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

新規就農者面談

～頑張っています～



個別面談風景

農業改良普及課は、3月6日から土佐市の青年等就農給付金受給者（27名）に対して個別面談を行いました。

平成28年を振り返り、技術的な課題や今後の経営方針も踏まえ、今後の検討をしました。気象条件などにより左右され、ほ場の条件や農地の貸借、労働力も関係し、農業所得向上で難しい一面もありましたが、今後の新規就農者のモデルとなるようなケースも見受けられました。

平成29年度から、国のフォローアップ体制も変わることを踏まえて、農業改良普及課は、関係機関と連携を取り、支援していきたいと思っています。

イチゴの環境制御技術に取り組んでいます

～JAとさしイチゴ部会の活動紹介～



生育調査を行っている
部会長とJA営農指導員

JAとさしイチゴ部会（7戸、1.14ha）は、昨年度から環境測定装置や炭酸ガス発生器を用いて、ハウス内環境の“見える化”や、炭酸ガスの施用方法の検討に取り組んでいます。

本年度、農業改良普及課は、部会長の炭酸ガス発生器導入ハウス内に試験区を設け、炭酸ガス濃度の推移や生育状況、収穫所要日数等を調査しています。

部会長は「グラフにより厳寒期の日中は炭酸ガス飢餓状態になることが良く分かった。残りのハウスにも炭酸ガス発生器を入れる」との感想があり、他の部会員からは「自分のハウスも測ってみたい」という声が出ています。

こうした“見える化”が生産者の気づきにつながり、行動につながるよう、農業改良普及課は、今後も支援をします。

いの町上東地区にあった集落営農法人を目指して

～四万十市（農）田野川甲営農組合視察研修～



挨拶する上東地区営農組合長

農業改良普及課は、いの町吾北地区の上東地区営農組合を対象に集落営農塾（法人化研修講座）を開催し、上東地区に合った法人形態や事業を検討しています。講義の一環として、3月12日に（農）田野川甲営農組合の視察研修を行いました。

現地においては、法人化の意義やメリット、組織や地域農業の向上について学び、更に、法人化に関する疑問点、心配な事に直接回答して頂くことができ、組合員の法人化に向けた意欲が向上しました。

農業改良普及課は今後も上東地区営農組合の法人化に向けた支援を行います。

中央西地区環境制御技術講演会および現地研修会の開催
～炭酸ガス施用と環境制御について学び栽培に活かそう～



現地研修の様子

３月１０日、土佐市新居コミュニティーセンターにおいて中央西地区環境制御技術講演会を開催しました。

講師の農研機構野菜花き研究部門施設生産ユニット長の東出忠桐氏は、県で初めての講演であったことから、他地区からの参加も多く、８７名（生産者３５名）が参加しました。講演会では、トマト、キュウリを中心に、温度・湿度・炭酸ガス・光など環境制御に関する基本的な考え方や多収に向けてどのように考えるのかという内容でした。講師の現地指導においても、炭酸ガスの施用方法等について活発な意見交換が行われました。

農業振興センターでは、収量・所得向上を目指し今後も環境制御技術に関する勉強会等を通して情報提供していきます。